

1. 第6回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

- 1 開催日時 : 平成30年1月15日(月) 14:00~16:00
- 2 場 所 : 尾原ダム管理支所(雲南市木次町平田211-5)
- 3 出席委員 : 速水雄一委員長、作野広和委員、勝部博委員、石原肇委員、景山孝志委員、勝田康則委員、横川裕委員、高橋裕司委員、柴田亮委員



4 議事次第

- 1) 開会
- 2) 委員長挨拶 速水雲南市長
- 3) 出席者紹介
- 4) 議事
 - ①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正の報告
 - ②尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ③平成29年度のプロジェクト実施状況
 - ④平成30年度の実施プロジェクト(案)
 - ⑤その他

5) 閉会

5 配布資料

- ・資料-1: 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正の報告
- ・資料-2: 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
- ・資料-3: 平成29年度のプロジェクト実施状況
- ・資料-4: 平成30年度の実施プロジェクト(案)

6 議事要旨

1) 委員長挨拶

- ・水源地域ビジョンが策定され5年目の節目となったが、その間、本ビジョンに基づく取り組みを着実に進めた成果もあり、さくらおろち湖への来訪者数は、平成25年度が約10万人、26年度が約12万5千人、27年度が約13万5千人、28年度が約15万2千人と順調に推移しており、平成27年度との前年比で概ね1万7千人増となっており、今年度も年間推計で前年度と同等の来訪者が見込まれている。
- ・今年度は、トレイルランニング大会やトライアスロン大会などの各種スポーツ大会が盛大に開催された。特に、11月に開催された第3回ロゲイニング大会は、第1回大会から比較すると約3倍の89名の方が参加されており、西日本随一の大会にまで成長し、着実にさくらおろち湖周辺のスポーツ人口は増加している。
- ・8月には、宍道湖のヨシを用いた工作、ヤマメのつかみ取りや流しそうめん、川の生き物調査

を開催し、松江市をはじめ、市内外から55名の参加があり、上下流交流の場として豊かな自然を満喫して頂いた。このような取り組みを通じて、さくらおろち湖の持つ地域資源を積極的に活用しながら、地元の皆様や地域づくり団体など、尾原ダム水源地域における多様な関係者の結びつきにより本ビジョンが着実に推進され、斐伊川流域の発展につながることを強く期待している。

2) 議事

①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正の報告

◆事務局より、規約改正について報告が行われた。

【事務局説明内容】

- ・平成30年1月9日付で規約別表の委員所属等を「布勢地区自治会長会 会長」から「NPO 法人奥出雲布勢の郷 理事長」に変更したことを報告した。

②尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

◆事務局より、第5回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会以降の取組状況について報告が行われ、承認された。

【事務局説明内容】

- ・第5回推進委員会後、さくらおろちを活性化する会を4回開催し、各プロジェクトの実施状況や各組織の取組内容等に関する意見交換を行った。
- ・さくらおろちを活性化する会での主な意見や情報交換された事項を報告した。

③平成29年度のプロジェクト実施状況

◆事務局より、平成29年度のプロジェクト実施状況について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・平成29年度もレガッタ大会や自転車競技、トレイルランニング、トライアスロン大会などのスポーツイベントが実施された。また、さくらおろち湖まつり、クレスト放流など様々なイベントや上下流交流も引き続き実施し、さくらおろち湖の魅力向上に努めた。
- ・今年度予定していたプロジェクト125件のうち、121件については実施済み又は実施が決定している。加えて、実施する活動として位置づけられていなかったが新たに10件を実施し、計131件が実施された。
- ・「情報発信の促進」や「農村体験施設の利用促進」、「漁業資源の創出（ワカサギの放流）」に区分されたプロジェクトのうち4件については諸事情により中止となったが、体制を整えて継続して取り組みたい。
- ・新たな取り組みとして、伐採した竹やたけのこを活用した交流活動として、尾原ダム周辺に自生するたけのこを伐採し上野動物園のパンダに送付した。また、NPO 法人さくらおろちが、ダム等に関わる上下流交流に功績のあった団体として、一般社団法人日本ダム協会より「第37回ダム建設功績者」として表彰された。

【委員からの主な意見】

- ・各プロジェクトについて、それぞれの組織や地域の方が主体性をもって活動し、成果が出ていることは高く評価できる。
- ・実施できなかった活動内容の一つである「情報発信の促進」に関して提案する。いま、スポーツを中心に多くの人たちが尾原ダム周辺地域にリピーターとして定着しつつあるのであれば、そういう人たちがこの地域の情報発信などにより主体的に関われるようにする

など、都市と中山間地域の関係性を新しい見方で捉える「関係人口」という新しい概念でアプローチしてはどうか。

④平成 30 年度の実施プロジェクト（案）

◆事務局より、平成 30 年度の実施プロジェクト（案）について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・来年度も引き続き、今年度実施した取組を推進していく。なお、1 件（ダムサイトの左岸広場の整備の検討）が完了予定のため、平成 29 年度と比較し 1 件減少する予定である（活動予定数：134 件）。

【委員からの主な意見】

- ・CSR 活動は建設業やダム事業等関係ある企業だけでなく、違った企業に CSR 活動へ参加していただくことで、多方面からの情報発信になるのではないかと。
- ・CSR 活動はコンセプトも重要である。例えばコンセプトを水とした場合、食品や製造業、農業など恩恵をうけられている企業に働きかけてはどうか。結果として情報発信につながる。あわせて労力で貢献されているところを表彰するとか、ストーリーや評価づくりをしてもらいたい。
- ・実施プロジェクトとして「情報発信」のなかに「ポスター作成」が設定されているが、各種イベントのなかでチラシ等を作成・配布し、ホームページに掲載が行われるなど十分情報発信がされていると思われるため、あえて「ポスター作成」を別建てとして設定せず、同じくくりで整理しても良い。
- ・ダム周辺の景観では竹林が目についている。竹林は放置すると広がる恐れがあるが駆除は容易ではない。関係者で知恵を出し合いながら対策の検討が必要。
- ・ワカサギについて、釣果が上がるようになれば冬場の交流人口の増加につながるなどが期待されるため、引き続き取り組んでいきたい。

⑤その他

◆事務局より、その他として情報提供を行った。

【事務局説明内容】

- ・猪の食肉加工施設（槻之屋）が 1 月末に完成し、年度内に稼働予定である。